

医学部後援会

監事 河本 武

◆順天堂大学医学部の会合は情報の交差点

愚息が本学医学部に入学したのは平成4（1992）年4月のことで、時移り星流れて早や26年が過ぎました。私達は6年間父母会（現 保護者会）活動をし、子供達の卒業後は順天堂大学医学部後援会として順天堂大学の応援団を務めさせて頂いております。本学には、ささやかな応援しか出来ておりませんが、私達は順天堂大学の各種会合に出席させて頂き、大きな刺激を受け大いに学ばせて頂いております。とりわけ理事長の小川秀興先生の見事な陣頭指揮振りには目を見張るものがあります。

普通、世の中では建物の拡張工事をする場合に、既存の建物を取り壊して更地にし、建て替えます。これを「スクラップ・アンド・ビルト」と呼びます。しかし、順天堂大学では最初に土地を確保して建物を新築し、そこに移転してから、旧建物を壊します。これを「ビルト・アンド・スクラップ」と呼びますが、中々出来ることなく「順天堂大学方式」と呼ばせて頂きます。

最初に「ビルト・アンド・スクラップ方式」が成功すれば、次々と好循環して、建て替えられていくのが順天堂大学の見えざる躍進の姿だと考えます。私は企業の経営者の一人ですが、素晴らしいサクセスストーリー経営に学ばせて頂いております。そのうえ、学祖祭でお聞きしたキャッシュ・フロー経営の中で、無借金経営をなさっていると知り、驚嘆致しました。「歴史の大きな変化は、しばしば一人の人間の心の中でそっと始まる」と言われております。まさに的を射た言葉だと思います。

ものの本によれば16世紀初頭にイタリアのフィレンツェで銀行家のメディチ家がスポンサーとなり芸術家、科学者、医師、商人等の交流の場をつくり、異業種交流を奨励致しました。芸術家ではミケランジェロやレオナルド・ダ・ヴィンチが現れ、世に言うルネッサンスが開花しました。これをメディチ・エフェクトと呼びます。順天堂大学の各種会合は異業種交流の交差点であり、お互いに刺激し合い、学ぶことが多く、まさしく「順天堂大学エフェクト」であります。子供達が入学させて頂いたお陰で、素晴らしい交流の場に加わることが出来、望外の幸せであります。

本学の益々のご発展を祈りつつ、後援会からエールを送らせて頂きます。